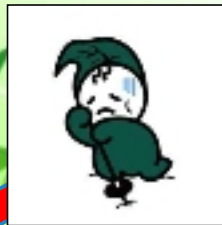


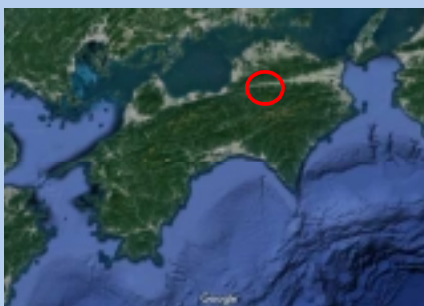
学校・家庭・地域がつながり 食育で進める「早寝早起き朝ごはん運動」



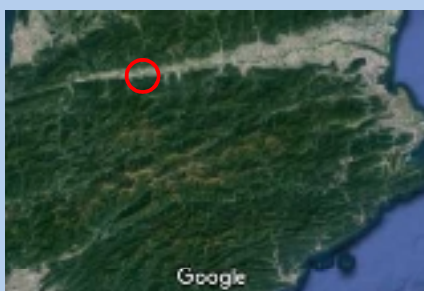
H31.2.13(水)
徳島県三好市立 辻小学校
内田 公生

1 はじめに

徳島県



三好市



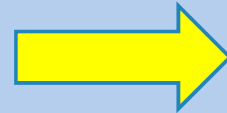
井川町



三好市立 辻小学校



つながり 交わり 響き合い 学校・家庭・地域の三者協働で進める 子どもの生きる力を育む食育



食育で進める「早寝早起き朝ごはん」運動

つながる食育推進事業

(平成29年度予算額：33百万円)
平成30年度概算要求額：61百万円

現状 現状：朝食欠食率4.5% ⇒ 目標値0% (第3次食育推進基本計画)

これまで学校を中心とした多様な取組による成果が見られたものの、食を取り巻く環境が大きく変化する中、子供の食に関する課題を解決するには、学校における取組だけでは限界があり、家庭を巻き込んだ取組が必要である。

事業概要

子供の日常生活の基盤である家庭においても食育を推進していく必要があることから、栄養教諭と養護教諭等が連携した家庭へのアプローチや、体験活動を通じた食への理解促進など、学校を核として家庭を巻き込んだ取組を推進することで、家庭における食への理解を深める。

【学習指導要領の改訂による食に関する記述の充実を踏まえた拡充】
①実施地域数を増加(6か所⇒8か所)、②食に関する指導を行うための教職員向けの指導書の改訂

事業イメージ(各モデル地域)

関係者が連携して家庭にアプローチ
親子体験活動等への参加を通して食への理解促進

子供の食に関する自己管理能力の育成

- 保護者の食への理解
- 家庭における望ましい食生活の継続的な実践

効果検証・普及(文部科学省)

子供や保護者の変化に係る共通指標を予め設定
-朝食摂取、共食、栄養バランスを考えた食事、ゆづりよもぎなどで食べること、食事マナーに対する意識、伝統的な食文化や行事食、食事の際の衛生的な行動

事業終了後に全国の取組の効果を検証
-各モデル地域の取組を共通指標等を基に取りまとめ
-実効性のある取組を全国へ普及
-報告書の作成、HPでの公表、事例発表会・会議等での周知

II 取組の実際～つながる食育推進事業の取組から～

1 食に関する実態調査 (H29年度 全校アンケート調査から)

○朝食を食べることは大切だと思うか

「思う」又は「どちらかといえば思う」

6月 95.4%

○朝食を毎日食べているか

週に4～5日以上

6月 96.9%

○朝食を家族と一緒に食べるのはどのくらいあるか

週に4～5日以上

6月 67.7%

2 取組の重点項目

- ①食育は学校・家庭・地域の三者協働で進め、児童にとって望ましい地域の食環境を作る。
- ②食に関する自己管理能力が付き、正しい食習慣を実践することが、「早寝早起き朝ごはん」の生活習慣に結びつくようにする。
- ③児童自身に自己の健康状態や変容、健康を支える生活習慣を自覚させることで、「早寝早起き朝ごはん」の習慣を現在から将来まで継続する意欲につなげる。

5

3 3つの「きょういく」アプローチ

教育アプローチ (education approach)

共育アプローチ (combination approach)

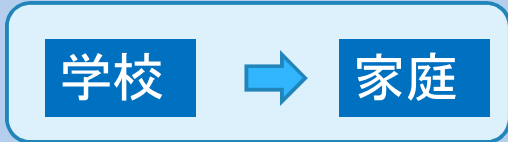
協育アプローチ (collaboration approach)

6

(1) 教育アプローチ

知識理解を深める食育の推進

食育について，学校が子どもを指導することと，学校が家庭に啓発や研修を実施することをあわせて「教育アプローチ」と呼ぶ。



保護者参画食育通信「でこまわし」の発行



編集委員会



(2) 共育アプローチ

親子学習による食育の充実

学校が子どもと家庭（保護者）をひとつにした食育を実践することを「共育アプローチ」と呼ぶ。

学校

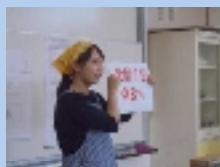


家庭

子ども

9

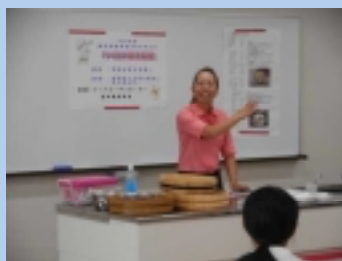
①親子体験学習プログラム「親子調理実習 すだちゼリーをつくろう」
(3, 4年生)



すだちゼリー

10

②親子体験学習プログラム「郷土料理 金時豆入りばらずし・ふしめん汁を作ろう」(5, 6年生)



11

③親子で学ぼう食育講演・学習会(5, 6年生)



12

(3) 協育アプローチ

学校・家庭・地域が一体となった食育の推進

学校・家庭・地域の三者が双方向で働きかけ合い、子どもの食に関する環境をより良くしていくことを「協育アプローチ」と呼ぶ。



13

① 食育交流会・講演会

■ 食育講演会 演題「食の力でつながる〇〇〇」



■ 交流会 「食を語ろう 食で語ろう」



■ 三世代交流パネルディスカッション 「家庭の食卓 地域の食卓」



14

②学校支援ボランティアの活用



朝市見学



グループワーク



食育教材製作



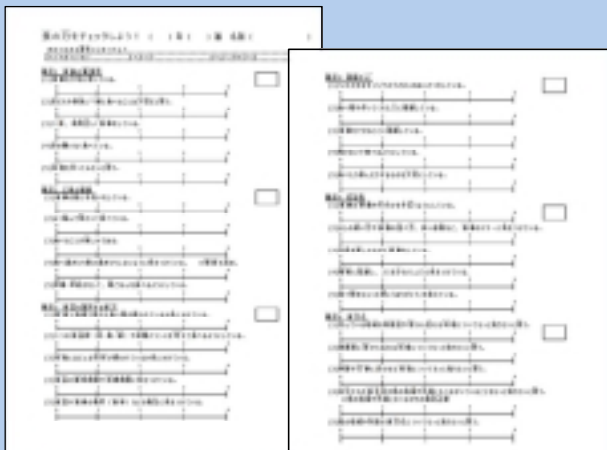
食育研修

2018/05/31 13:30

③食育ソフト「めざせスーパー元気」

食育ソフト「めざせスーパー元気」キャラクター

個票

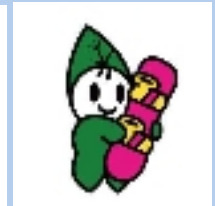
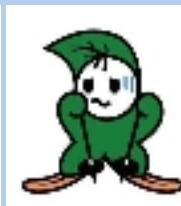


チェックシート

■ 0～24点

■ 25～48点

■ 49～60点



■ 61～72点

■ 73～84点

■ 85～96点

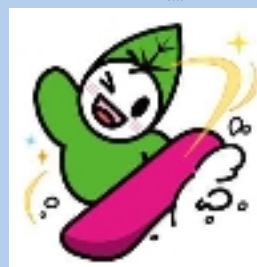


[元気もりもり]

■ 97～108点

[スーパー元気]

■ 109～120点



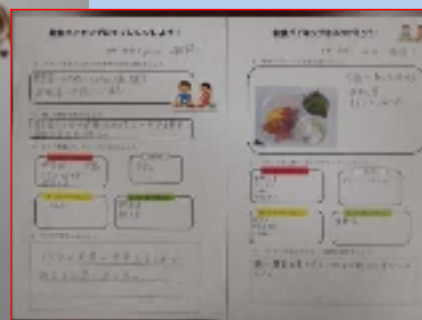
Ⅲ 「早寝早起き朝ごはん」意識化と実践化の取組

〈取組事例〉

- ①朝食バイキングにチャレンジ
- ②子どもが作る弁当の日
- ③ポップの作成

17

①朝食バイキングにチャレンジ(6年生)

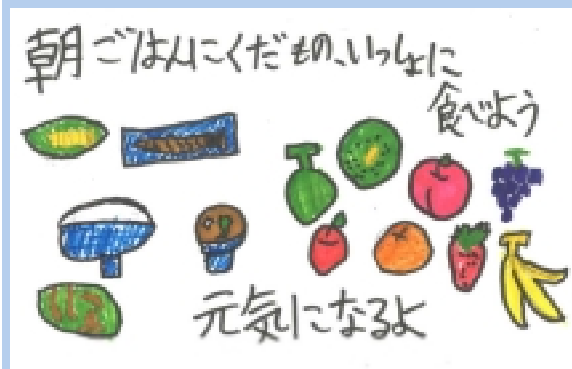


18

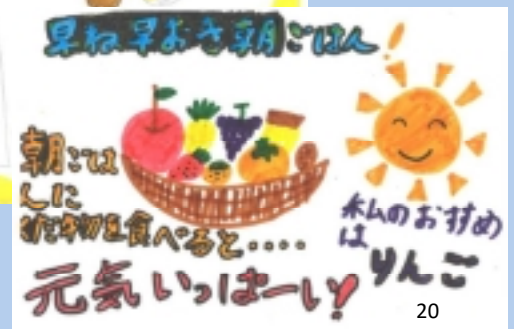
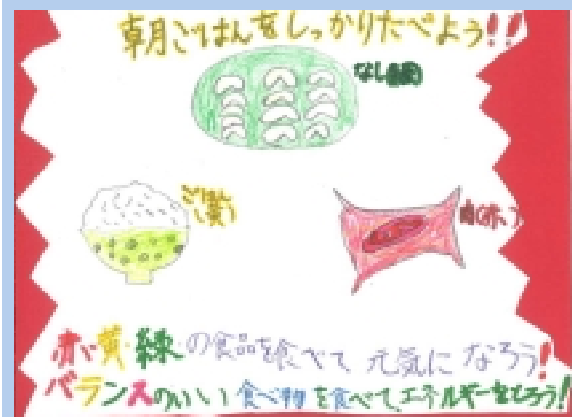
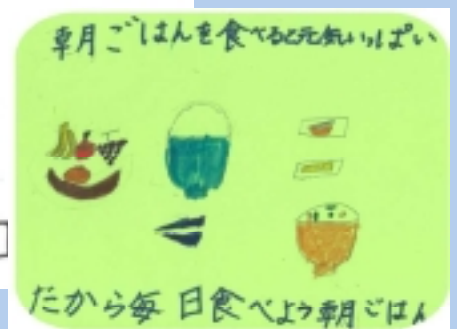
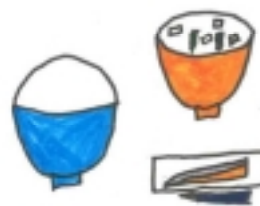
②子どもが作る弁当の日(6年生)



③ポップの作成(4~6年生)



朝ごはんをいっぱい食べると
元気いっぱい



IV 成果と課題

H29年度 全校アンケート調査から

○朝食を食べることは大切だと思うか

「思う」又は「どちらかといえば思う」

UP

6月 95.4% → 1月 98.5%

○朝食を毎日食べているか

週に4～5日以上

UP

6月 96.9% → 1月 100%

○朝食を家族と一緒に食べるのはどのくらいあるか

週に4～5日以上

UP

6月 67.7% → 1月 74.2%

21

1 成果

①【プランの共有】

食育推進と「早寝早起き朝ごはん」運動推進を同時に一体化して進めることができた。教職員間、保護者や地域ともプランを共有化することができ、協働して推進することができた。

②【効果的な実践】

学校と家庭がつながる5つの実践は、特に効果があった。

- ・保護者参画食育通信「でこまわし」の発行
- ・親子体験学習プログラムの実施
- ・学校支援ボランティアの活用
- ・子どもが作る「弁当の日」の実践
- ・「食の力」の分析と共有による活用

③【「食の力」の明確化】

食育ソフトの開発と、「食の力」の明確化により、子ども、教職員、保護者、地域すべてが食育という面でベクトルをそろえることができた。

22

2 課題

①【保護者の意識改革と実践力向上】

「早寝早起き朝ごはん」の習慣化を、子どもも保護者も切実感をもって自分事として捉え実践化を図れるよう、これからも継続して働きかけていく必要がある。

②【運動推進の継続と新たな方策】

効果的な取組を継続することで、子どもに望ましい生活習慣の定着を図る。

③【実践の継続に向けての組織運営】

学校・家庭・地域が三者協働の教育力を発揮する必要がある、そのための恒常的な仕組みを作る必要がある。

23

V 今後の取組の展開

平成29年度(昨年度)
ホップ

「学校・家庭・地域の三者協働で進める、子どもの生きる力を育む食育
複雑化＝取組の広がり とにかくやってみる



平成30年度(本年度)
ステップ

「未来へつなげる『食の力』～持続可能な食環境(食育ベース)の構築～」
単純化＝取組の焦点化 効果的なものに絞り込む



平成31年度(来年度)
ジャンプ

「子どもの食の自立へ向けて～食を考え、行動し、継続する力の育成～」
継続化＝取組の継続 継続する仕組みをつくる

☆3つの「きょういくアプローチ」を「きょういくプログラム」として定着させる。

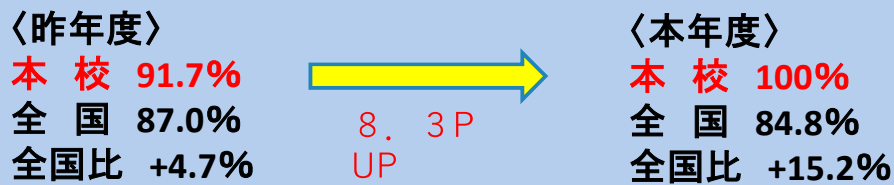
24

VI おわりに

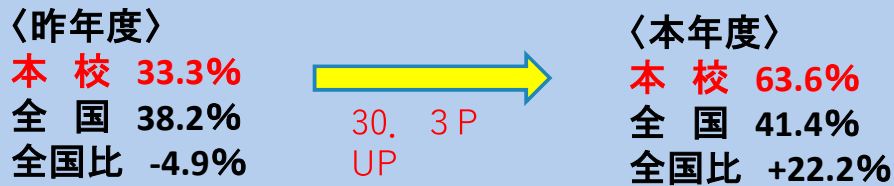
全国学力・学習状況調査(第6学年)

☆昨年度と本年度の比較

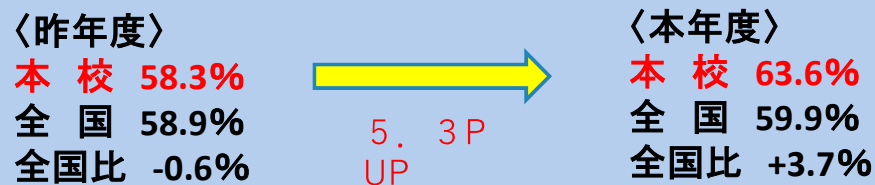
設問1 朝食を毎日食べていますか。



設問2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



設問3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



ポスターセッションで伝える
「早寝早起き朝ごはん」活動



朝の体力アップマラソン

健康で、めざせパワフル100歳

ご清聴ありがとうございました。

